

future-future





■ 看護学部長 中野 綾美



高知県立大学は、21世紀における新しい価値観を創造していくことのできる人、地域文化を創造し貢献していくことのできる人、豊かな人間性を兼ね備えている人を育てていくことを教育目標としています。看護学部は、高知女子大学看護学部の歴史と伝統を礎として、看護学の知を創造し、社会のニーズに応える看護専門職者の育成を行っています。

看護は、生命を育み、様々な健康レベルにある人々の権利を擁護し、その人らしい生活を営むことができるように専門性を発揮して支援していきます。本学部に入學してきた一人ひとりの方々が、看護の専門性を学び、専門職者として将来、看護師、保健師、助産師、養護教諭として様々な分野で活躍できるように、教員体制、充実したカリキュラム、学習環境、地域の保健医療機関とのネットワーク、全国に広がる卒業生のネットワークを整えています。

大学の4年間は、自分自身を見つめ、生きる道を選択する大切な時間です。人と人とのつながりを大切にしていく校風の中で、こころをオープンにして、人との出会いを通して多くの学びをして頂きたいと思っています。そして、夢に向かってしっかり歩んでいていただきたいと思います。私たち教員は、一人ひとりの個性・持てる力を見極め、力を発揮できるように、精一杯、みなさんを応援していきます。

■ 健康管理センター

健康管理主任 吉岡 房恵 / 看護師 濱田 美代

女子大から共学の県立大学となり、学生もどんどん変化していて毎日が驚きと学びの連続です。相談に来る学生の多くが青年期の真只中で様々な迷いや悩みを抱えながら、精一杯より自分らしく生きようとしています。若い学生達の心に寄り添いながら勇気づけ支えていくために、希望を忘れず力を蓄えていきたいと思っています。学生の個性を伸ばすことと適応を促すこと、援助することと努力を後押しすることの丁度良い地点を模索し続けています。



当センターは、『自分の健康は自分で管理する』という学生さんの主体的な健康へのかかわりを目指して、健康診断や健康管理、健康教育、専門職による健康相談等を行なっています。センター長はじめスタッフ一同、学生さんが利用しやすい健康管理センターになるよう、取り組んでいます。



1回生



入学式からあつという間に3ヶ月が経ちました。初めての一人暮らしを体験している学生さんたちも、少しずつ自炊生活に慣れてきたようです。4月には初々しかった皆さんの表情も、看護や医療に関する専門的な知識を学ぶことでだんだんと引き締まってきました。大学の実習室を使って本格的な看護ケアを学ぶ演習も始まり、自習時間になると実習室は満員になります。

7月にはいよいよ初めての前期試験が始まりますが、勉強も実技もこつこつと復習を重ねて頑張っています。もちろん、大学生活は勉強だけではありません。ボランティア、サークル活動にアルバイト、ときには仲間で遊ぶことも大切にしながら、みんなが日々成長しています。

2回生



4月には毎年恒例となっている新入生とのバスハイクを行いました。今年は自分たちが主となり企画から運営まで行いました。当日はあいにくの雨でしたが、自分たちで企画したバスハイクで1回生と楽しく過ごしたり大学生活のアドバイスをしたりと先輩として成長した姿を垣間見ることができました。

2回生では、1回生で学んだ基礎を土台に講義内容や演習内容も、より専門的で高度になってきます。そして、臨床現場ではじめて一人の患者さんを受けもつ実習もあります。この人にとっての生活ってなんだろう？疾患をもつことがこの人にとってどのような影響を及ぼすのだろうか？私は看護職として何ができるのだろうか…？講義でのグループワークや実際に実習で出会うはじめての患者さんとの関わりを通して、それぞれが自分の課題に向き合い、悩みながらも努力を積み重ねることによって、専門職としての自覚も徐々に芽生え始めているように感じます。

3回生



3回生は、10月より始まる領域実習に向けて、各看護専門領域の講義を受けるとともに、これまで学んできた知識と統合し、様々な疾患や障害をもつ方々への看護について学びを深めています。さらに、6月には、継続的な就職支援活動として、看護学部が主催した医療系就職ガイダンスに参加しています。これは、講演会と分科会の2部構成で、講演会では高知医療センター教育担当副科長と現在専門看護師として活躍中の本学卒業生に講演していただきました。

分科会は看護師、保健師、助産師、養護教諭として活躍されている5名の先輩を迎え、様々な質問に答えていただきました。学生達からは「具体的な目標ができた、就職が具体的にイメージできた」と、今後の進路選択とその取り組みについて深く考えられる場となりました。

4回生



いよいよ最終学年を迎え、4回生は講義や実習、国家試験勉強、就職活動へと邁進しています。5月～6月には、ワクワクWork!!の就職ガイダンスや、高知県内の病院に就職した先輩から就職活動や仕事について話を聞く会、海外で看護師として活躍している先輩からの話を聞く会などを開催し、参加者は熱心に話に耳を傾け、質問をしていました。講義や実習の合間を縫って、積極的に病院見学会やインターンシップに参加をして、病院での看護体験を積みながら、将来の看護職としての自己像を描いています。

6月25日からは4年間で最後の臨地実習が開始になり、各自が課題達成に向けて一所懸命に取り組んでいます。国家試験受験まで駆け足の1年となりますが、4回生がこれまで培ってきた力を発揮し、無事に乗り切れるよう、皆で支援していきたいと思えます。



■ 教育の工夫

「頭が真っ白で…、何も分かりません」学生から何度も聞いてきました。「実習の場での学生の緊張を和らげたい」、「自分の頭できちんと考えられる看護職者に育てほしい」そんな思いから、シミュレーション教育を講義に取り入れました。部分的なシミュレーションはこれまでも行なっていましたが、生体の反応を再現できる高機能シミュレーターが導入され、本格的なシミュレーション教育を行なっています。高機能シミュレーターは、講義場面で症状をイメージするのに活用したり、身体の観察をする講義のデモンストレーションで活用したり、患者さんの状況をイメージして、次どうなるか予測したり、必要な看護援助を考えたり、何人かの患者さんを担当したときにどの患者さんから対応するかを考えたり…というように、学生の教育に取り入れています。



また、シミュレーターだけでなく、模擬患者さんにご協力いただいて、援助場面で相手の反応に合わせてどう対応するのかといったことを考えながら行う演習も組み合わせて行います。実際の臨床場面は複雑です。シミュレーションでは、机上で学んだ知識を使って、目の前の患者さんの状態をどう考え、判断し、援助するかといった一連のプロセスを実習室という守られた空間の中で繰り返し学ぶことが可能で、講義と演習と実習をつなぐ重要な役割を担っています。

学生からは、「シミュレーションを行うことにより、具体的な考え方が分かり、また具体的にケアをどのようにしていけばよいのかが分かりやすい」「シミュレーターだけでなく模擬患者さんに接することで、より現実味がまして危機感を持った」という感想が寄せられました。今後も、学生の看護実践能力を高められるように教育方法を工夫していきたいと思えます。

■ 学生さんからのメッセージ

私たち4回生は、卒論・実習・就活・国試の勉強と忙しい毎日を過ごしています。

ゴールデンウィーク明けから小児看護実習・養護実習・総合看護実習・看護管理実習が続き、最後の臨地実習の中でそれぞれが目標を持ち、実習に臨んでいます。そして、実習や卒論などのあいている時間をみつけ、就職活動や国試の勉強を始めています。卒論メンバーやクラス全体で情報交換をしながらお互いに助け合って、学生生活最後の1年を大切に過ごしていきたいと思っています。

4回生代表



毎年看護学部では、4月21日の創立記念日には2回生が新入生のためにバスハイクを企画しています。今年は、龍河洞と野市動物公園に行ってきました。1回生同士だけでなく2回生や教員とも一緒になれるように構成されたグループでは、最初はぎこちない雰囲気でしたが、一緒に洞窟や動物園をまわる中で、自然とうちとけていきました。1回生同士の交流だけでなく、2回生から大学生活でのアドバイスを聞くなど、学年を超えて交流も深めることができました。楽しい時間を過ごすことができ、これからの大学生活が充実するきっかけとなりました。

2回生 伊藤萌 猪野綾子

〔ニュースターの名前の意味〕 fure-fure 学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。 fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp